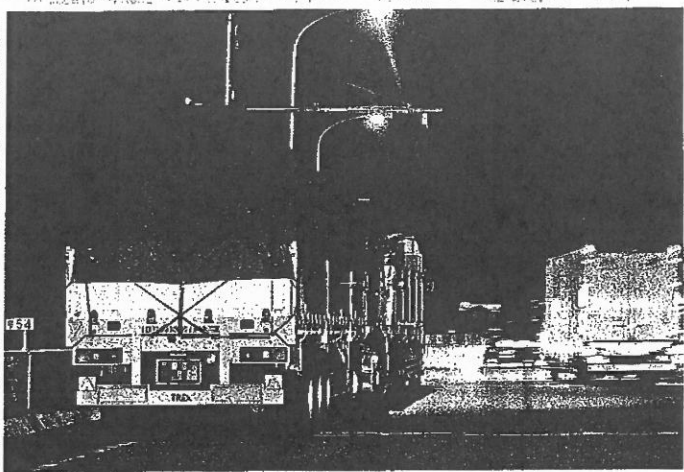


通

運転命じた社長 異例の逮捕

深夜の高速道路で路肩に停車するトラック。運転席では運転手が休んでいた。神戸市西区(画像の一部を加えています)



路肩仮眠 過労浮き彫り

仮眠のため高速路上で違法駐車していたトラックを逮捕し、兵庫県警交通捜査課などが今月、道交法違反(過労運転など)の「人命・容疑」容疑で加古川市の運送会社社長を逮捕した事件。運転手の供述から過労運転の指しを裏付け、事故を起こす前の異例の立件に踏

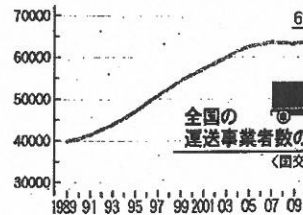
県警「事故前に芽を摘む」

運送業 コスト優先 改善模索

運送業界で常態化が疑われる過労運転。規制緩和による過当競争が招いた「薄利多売」の産業構造の中で、長年問題視されてきた。今年夏には、荷主も行政など関係機関を交えた初代会合が各都道府県も労働環境の向上に向け取り組みに本腰を入れない利益を数多く確保

運送業界で常態化が疑われる過労運転。規制緩和による過当競争が招いた「薄利多売」の産業構造の中で、長年問題視されてきた。今年夏には、荷主も行政など関係機関を交えた初代会合が各都道府県も労働環境の向上に向け取り組みに本腰を入れない利益を数多く確保

今日午後深夜。県内の高速道路を走ると、路肩に停車するトラックに次々と遭遇した。いずれも運転席はカーテンに覆われていた。高速道路上の駐車は道交法で禁止され、故障などの場合は三角板などを後続車に示す義務がある。この目撃したトラックはいずれも示していなかった。「サービスエリアも一方、逮捕された運送会社



「運送業が疲弊している」と知っていたが、会社の利益のために運行させた。供託し、無罪な運送の指しを認められている。

長は「運送業が疲弊している」と知っていたが、会社の利益のために運行させた。供託し、無罪な運送の指しを認められている。



過労運転が原因とみられる事故は全国で後を絶たない。事故が起きたら経営者の責任も問われるが、業者間の競争が激しくなる中、事故の抑止が難しくなっている。

今回の逮捕について捜査幹部は「重大な事故が起きてからは遅い。起る前に芽を摘む必要がある」と捜査の狙いを明かす。

利便より安全優先を関西大の安部誠治教授(交通政策)の話。運送業界は新規参入が相次いで競争相手が増え、安い仕事であっても受けざるを得ない状況だ。倒産する業者も多い。消費者が荷物の受け取りを細かく時間指定できるのも運送手には大きな負担。安全確保のため、こうした仕組みも曲がり角に達している。消費者自身が考えなければならぬ。

ないが現状を指摘。一理解が進み、労働環境が改善されれば、事故の危険も減らされるはず」と期待する。